

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『復興と税金のつながり』

町田市立つくし野中学校3学年 和平 優香

先日、宮崎県日向灘を震源とするマグニチュード七・一の地震が起きた。これにより大規模地震の発生可能性が平常時と比べて高まっているということが考えられ、南海トラフ地震臨時情報が気象庁によって発表された。

私はこのニュースを見て、二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災の記憶が呼び起こされた。その当時、私は二歳で地震というもの自体あまりよくわかっていなかった。しかし、テレビに映るあの見るに堪えない津波の映像だけは鮮明に覚えている。あの震災から早十三年。いったいどうやって復興に進んでいったのだろうか。そこには税金が深く関わっていた。

調べてみると、人々を助けるために動いた自衛隊や警察、消防などの大勢の人の派遣費用や救援物資の一部に税金が使用されていることがわかった。そして子供の心のケアとして緊急スクールカウンセラー等派遣事業にも税金が使われた。私は、復興支援というと主に物資の支援をするものだと思っていたが、被害を受けた人々の心にまで寄り添うといったことを知って感銘を受けた。

この震災では復興特別税という復興に必要な財源を確保するため

の増税が行われていた。所得税分では、二〇一三年から二〇三七年までの二十五年間税額に二・一パーセント分を上乗せして徴収、住民税分では二十三年度分まで年千円が加算された。この政府の対応に対し、不満の声もあった。

しかし、この税がなければどうなっていたのだろうか。自衛隊の方々などに助けられた人たちの命は税金によってつながれているといても過言ではない。また、災害や事故によって強い衝撃を受けたことによる「PTSD」を発症した人も多くいた。きっかけとなる出来事から時間がたつても、強い恐怖心や不安を感じたり、フラッシュバックに苦しんだりと日常生活に支障が出る事もある。こういった人たちがどれだけ震災後の心のケアによって救われたことだろうか。このように税によって助かった人の数は計り知れない。

これまでの私は、「税」に対して様々なことに関連して負担させられる、あまり良いイメージのないものとして捉えていた。でも今は違う。税によって大勢助かる人がいて、救われる命もある。これを知り、日本国民の一員として納めていくべきものだとということを知覚した。大震災がいつ起きてもおかしくない今だからこそ、震災の税の使われ方について深く知ることができて良かったと思う。税金は震災の対応以外にも多方面から私たちの日々の生活を支えてくれている。これからもっと税の事について学校の授業を通して学習し、税を納める価値に対する知識を高めていきたいと思った。